

近藤重蔵と瑞雪禅院

北方探検の先駆者 近藤重蔵

近藤守重(1771~1829)は江戸後期の北方探検家です。江戸の人で通称重蔵、号は正斎・昇天道人でした。寛政10年(1798)松前蝦夷地御用となり、数回にわたり千島方面を探検し、択捉島に「大日本恵登呂府」の木標を建てるなど北方の防備開拓に尽力しました。重蔵は、探検の功などにより書物奉行に任ぜられ

ました。

文政9年(1826)5月18日、鐘が崎(現在の東京都目黒区)の別荘において息子富蔵が境界争いで塚越半之助ら7人を殺傷する事件を起こします。罪人となった富蔵は八丈島へ流罪に、父重蔵は「監督不行届」ということで、近江大溝藩分部家にお預けの身となりました。

重蔵と大溝藩

大溝藩での重蔵の獄舎は、陣屋総門を入れて突き当たり左に位置し、現在同地を訪ねると石標があります。この地で重蔵は幽閉生活を送り、大溝藩士との交流を深めました。

文政12年(1829)6月9日近藤重蔵は59才で悲傷のうちに病没しました。検死は7月16日に行われ、大溝の山の手にある大溝藩主分部家ゆかりの瑞雪禅院墓地に葬られました。重蔵の

墓石の表には、藩士分部準輔の揮毫によって「近藤守重之墓」、裏側には法名「自休院俊峯玄逸禅定門」、左右に「文政十二年己丑年」「六月十有六日」と刻まれています。これは、徳川家斉公十三回忌にあたり、改易を赦免されたのを機に、大溝藩が藩主の菩提寺圓光禅寺の寶洲和尚に命じて法号を授けるとともに、墓石の裏に刻ませたのです。

重蔵の顕彰

明治44年(1911)9月15日、明治政府から近藤重蔵に対し北方探検の功績により正五位が贈られ、翌大正元年大溝尋常小学校で盛大な贈位報告祭が挙行されました。これに先立ち、重蔵の遺品管理や顕彰のため「近藤会」が設立され、重蔵の百五十回忌にあたる昭和56年(1981)には、新たに「近藤重蔵翁顕彰会」が発足し今日にいたります。

高島歴史民俗資料館
☎(36)1553

「近藤重蔵遺品展」のお知らせ

時 6月1日(木)~30日(金) ※月・火休館
所 高島歴史民俗資料館

主な展示品

- 「近藤重蔵甲冑肖像画」
- 重蔵遺愛「洲浜秋草双鳥文鏡」
- 重蔵愛蔵「伏竹弓」残欠
- 「近藤様御容体書」
- 伝 重蔵所蔵「念持仏」 他

高島歴史民俗資料館
☎(36)1553

今回の表紙は大溝祭の宵宮祭。久しぶりに曳山巡行が行われたということで会場は活気にあふれ、思わずカメラのシャッターを押し忘れて見入ってしまうほどでした。宵宮祭や本祭のようすは表紙だけでなく、市のInstagramでも紹介しているので5月の投稿も要チェック!! (K)

編集雑感

近藤重蔵墓所



広報たかしま

令和5年

6

月号

No.281

発行▼高島市 編集▼政策部企画広報課
〒470-1501 滋賀県高島市新旭町北畑5の10番地

☎0740(25)8000(代)
https://www.city.takashima.lg.jp
✉t-info@city.takashima.lg.jp